

霞ヶ浦での魚類相の変遷：とくに近年の外来種問題に注目して

加納光樹（茨城大学水圏環境フィールドステーション）

日本第2位の湖面積を誇る霞ヶ浦は、古くから漁業が盛んで、高い生物多様性を有する海跡湖である。今回は1960年代以降の魚類相変遷と環境改変（河口堰の設置、水質悪化、治水・利水のための湖岸開発、水辺植物帯の消失、外来種の侵入など）の関わりを概説したうえで、とくに近年漁業に甚大な被害をもたらしている外来ナマズ問題について報告する。

